

生垣、芝生、スピッツ

昭和35年頃の深沢7丁目（当時は4丁目）といえば、生垣の家が多く、庭の木立も豊かだった。私の家もヒバの垣根に囲われ、二世帯で住める「く」の字型の平屋だった。庭の四分の一ほどは木立で、そこを私たち子供は「森」と呼んで、青木の実を投げて戦争をしたり、梅の木に登ったりして遊んだ。ほかに小さな竹藪もあったから、物干し竿には不自由せず、余った竹竿を縁の下にたくさん積んでいた。梅雨時には驚くような大きいカタツムリが紫陽花の枝にいくつも止まっていた。

風呂は薪焚きで、祖父が鉋で薪を割っていた。それは程なくしてガスに切り替わったが、それでも浴槽は木の樽のような、あの古いものだった。トイレは汲み取り式で、農家のおじさんが柄杓で汲んで、桶に入れて運んでいった覚えがあるが、その後はバキュームカーでの汲み取りだけになった。

小さな小屋に鶏を3羽ほど飼っていたが、幼い私の背丈とさほど変わらない、その気性の荒い鶏が怖かった。私の生まれる前は20羽ほどを飼って卵を生ませていたが、面倒になってやめてしまったという。農家も散在していた当時、鶏を飼う家は珍しくなく、朝の鶏鳴は昭和40年代頃まで、町のどこかで聞こえていた。

朝晩は空気の冷えるせいか、二子玉川の鉄橋をわたる電車の音がよく聴こえ、それに混じって汽笛も聴こえた。南武線の砂利採り支線なのか、もっと遠くの横浜線の貨物列車だったろうか。都内ではもう蒸気機関車はほとんど見られなかったが、私は汽笛だけは朝晩遠く聴いていた。

私の家と隣家との間には小さい木戸があり、主婦同士の用事や、子供同士の遊びの通路に使われていた。そのSさんの家にはひろびろとした芝生があった。五月になるとその中央に高い鯉のぼりが立てられた。ある日の強風で、その鯉が竿をはずれて電線にからまり、口金の輪によって辺り一帯が停電してしまった。物凄い音がして冷蔵庫の後ろから火花が散ったのを覚えている。防護装置のある今ではこんな事は起きないのだろう。

当時は庭の広さに関わりなく芝生が好まれていたようで、よく見かけた。それは古い日本家屋のくすんだ色の縁側をよく引き立てていた。

今はあまり見かけなくなった犬のスピッツも、当時は人気の犬種だった。ただスピッツに限らず、リードを付けないことも多かったから、私たち子供にとっては街角で出会う犬は恐怖だった。一度は追いかけて家まで全力で逃げたことがある。「犬殺し」などと言われた捕獲の車もたまに見かけた。

犬といえば、懐かしいのは確かサザエさんにも出てくる「ジョン」という犬。利口でおとなしく、ジョンが縁側に訪ねてくると子供は大喜びだった。Bさんの飼い犬だったと思うが、自由に町を歩くことが許されていたようで、八百屋さんのオート三輪のお供をしていることが多く、誰もがジョンを見かけると笑顔になった。

木津直人（鎌倉市在住、本会会員）



西大通りの「深沢中学入口バス停」付近
(昭和30年代 前方は、246号)



深沢・桜新町さくらフォーラムは、地域の風景づくりの活動に取り組む市民団体です。<http://sakura-forum.jimdo.com/>、fb
2面～3面：散策会での石井樹木医のお話と写真、4面：寄稿文「生垣、芝生、スピッツ」

無原罪特別保護区散策会を開催しました(10/17日)

当日は朝から冷たい雨が降り冬を感じるような日でしたが、樹木医の石井誠治さんの楽しいジョークを交えてのお話をうかがって、あっという間の2時間の散策を楽しみました。

寄せられた感想の一部を紹介します。

Aさん；お庭の公開日には何回か散策をしましたが、石井先生のお話を聞きながらの散策で益々樹木や草花に興味が増えました。町内にこのような自然があることが自慢で嬉しく、大切にしたいです。

Bさん；幼い頃より慣れ親しんだ『聖母のお庭』の散策は、今でもワクワクします。お庭の植生は、やはり同じ地域だけあって、昔の我家の庭にもあった懐かしい木々ばかり。そんな身近な植物のお話がうかがえて大変興味深かったです。



●石井誠治さんのプロフィール

1951年東京生まれ。世田谷区上北沢在住。樹木医、森林インストラクター、環境カウンセラー
著書：『わたしは樹木のお医者さん：木々の声を聞き取ります』2016／『都会の木の花園鑑 新装版』2016／『木を知る・木に学ぶ』2015／『大人の樹木学』2013／『樹木ハカセになろう』2011

●特別保護区とは？

世田谷区が「みどりの基本条例」に基づいて、樹林地や水辺地、動物生息地が一体となった土地で自然的社会的諸条件から保全する必要があるとして指定する民有地で、次の4か所があります。
神明の森みつ池特別保護区(成城4丁目、6,056.41㎡)
烏山弁天池特別保護区(北烏山4丁目、2,322㎡)
深沢八丁目無原罪特別保護区(3,000㎡)
経堂五丁目特別保護区(1,817㎡)

●これまでの散策会は、晩秋(2016年)と夏(2018年)に開催しました。それぞれニュースレターNo.25、No.32に紹介しています。ホームページをご覧ください。

●無原罪特別保護区には湧水があります。湧水を守るために、集中豪雨などの際の下水道の負担を減らすために、雨水を地面に浸透させましょう。

- ・雨水浸透施設とは、たくさんの小さな穴が開いたコンクリート製またはプラスチック製のますや管(トレンチ)で、ますや管の周りを砕石で覆って水が通る隙間を人工的に作り、雨水をスムーズに地中へ浸透させる機能を果たします。
- ・世田谷区は雨水浸透施設の設置に助成しています。(既存住宅も対象) 事前に、土木部豪雨対策・下水道整備課(6432-7963)にご相談ください。無原罪特別保護区湧水地涵養域(深沢七丁目4番～11番、24番、25番、深沢八丁目全域)では、工事費の100%が助成されます。(限度額はあります。)



区のリーフレットから抜粋

さくらフォーラムから いずれも4面の発行元にご連絡ください。

- ・「深沢・桜新町100年史」(定価500円)を販売しています(A5版、全カラー、表紙共72ページ) 新町住宅地の分譲開始(1913年)前夜からの深沢・桜新町の100年をまとめた小冊子です。
- ・会員を募集しています この地域の景観・環境・みどりなどに関心のおありの方は、ぜひご参加ください。

発行元：深沢・桜新町さくらフォーラム <http://sakura-forum.jimdo.com/> fb

〒158-0081 世田谷区深沢 8-19-6 フェリックス気付 電話：03(3702)3274 FAX：03(3702)3219

©深沢・桜新町さくらフォーラム、2021

世田谷区地域の絆ネットワーク支援事業補助金を受けて作成しました。



根の役割の一つは、 樹を支えること

根積：他の木より背が高く風が当たる樹なので、土中の根だけでは支え切れず、地上まで根が板のように盛り上がってきています。



無原罪宣教女院前庭のシラカシ

根の役割のもう一つは、 水分を幹・枝へ供給すること

水を吸っているのは根の先端の白く細い部分だけで、春から秋にかけて、木が活動している間は根も伸び続けています。先端部分は1週間ほど水を吸い続け、その後はさらに伸びた先端に役割を譲ります。



この若いクワの葉は、輪郭に切り込みを入れたような複雑な形になっています。下の葉に光を当てるためのすきまを作っているからです。

光合成をするための工夫

樹木は、根から吸った水と葉の気孔から取り入れた二酸化炭素(CO2)を原料にして、太陽の光のエネルギーを使って養分(デンプンなど)をつくり酸素を出す作用(光合成)をしています。CO2削減に大きく役立っているわけです。

効率のよい光合成をするための様々な工夫の例(クワ、アオキ、サルスベリ)をご紹介します。



アオキは、葉だけでなく枝でも光合成を行うため、枝も緑です。日陰でもよく育ちます。冬に赤い実をつけます。



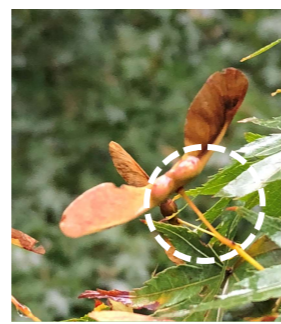
サルスベリは、白っぽい幹の薄い皮をはがすと光合成をしている緑色の幹が出てきます。



イロハモミジ

繁殖のための工夫

鳥—鳥に実を食べさせて、種を糞と一緒に他所に蒔いてもらいます。
虫—**ハマヒサカキ**は、強烈な匂いで昆虫を誘って花粉を運ばせます。
風—低木の**イロハモミジ**は、種にプロペラを付けて飛ばします。風に乗って飛ぶ時は2つに分かれて、別々に回転しながら飛びます。
高木になる**ケヤキ**の種は、葉に乗って飛んでいきます。



ケヤキ

(2016年11月撮影)



葉の茂り方は、樹の元気さのバロメーター

無原罪宣教女院前庭の特別保護区入口手前にある**シラカシ**は上の方の葉が少なくなっています。これは根が傷んで水を吸えなくなっているからです。樹は、夏の間上の方の葉を落とすことで、水分が葉の表側にある気孔から蒸散する全体量を少なくして、根から吸い上げた水分を保っています。前庭の入口近く(道路側から見て左側)にある**スタジイ**と**マテバシイ**は、上下の葉の繁り具合が同じで元気です。

紅葉間近のお庭の様子とお話の内容を紹介します



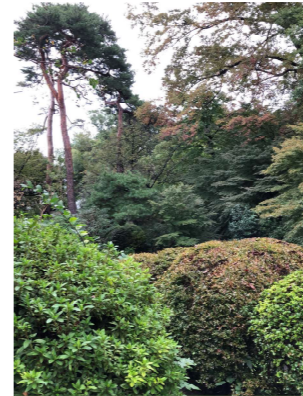
一緒に楽しんでくれましたか？
木々の声が聞こえたでしょう？

葉っぱは、裏も見て、触って、においをかぐのが大事なんですね！
お話、おもしろかった！

植物の工夫ってすごいですねえ。
この緑でCO2が減るのはどの位？



アオサギが池に降り、すぐ飛び立って屋根に停まりました。都会でアオサギが見られるのも湧水のおかげです。



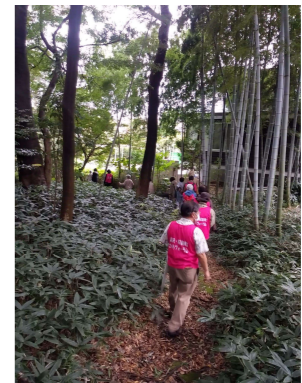
サツキの植え込み



図のC点付近で説明を聞く
リュウキュウハゼが少し紅葉しています。



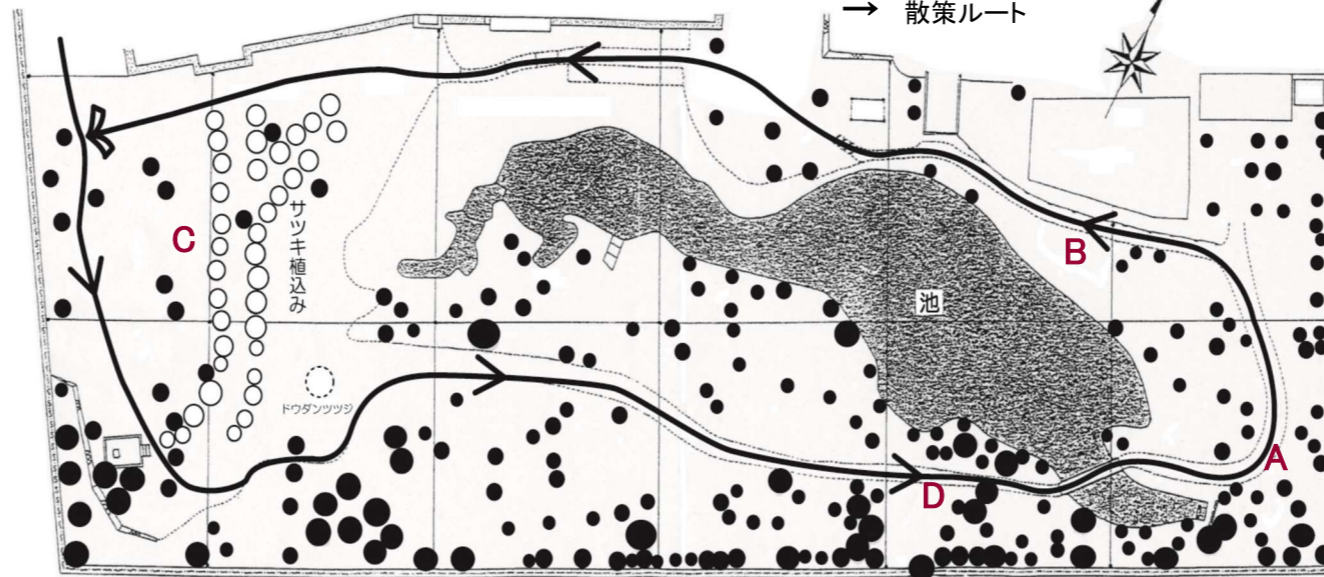
図のB点付近で説明を聞く



図のA点付近を歩く

深沢八丁目無原罪特別保護区

○ サツキ
○ ドウダンツツジ



この図は、(一財)世田谷トラストまちづくりにご提供いただきました。(A、B、C、Dを加筆)

水の流れ

道を隔てた南東の深沢の杜緑地の池につながっています。



図のD点付近から見た池と周辺
紅葉のはしりが見えます。

散策会で 取り上げられた草木

- アオキ
- アカマツ
- イロハモミジ
- カエデ
- キフネギク
- クチナシ
- クマザサ
- クワ
- ケヤキ
- サザンカ
- サツキ
- サルスベリ
- シダ
- ジャカラнда*
- シュウメイギク
- シラカシ
- スタジイ
- センリョウ
- タブ
- ドウダンツツジ
- トベラ
- ナツツバキ
- ナンテン
- ハマヒサカキ
- ヒガンバナ
- ヒサカキ
- ホンサカキ
- マテバシイ
- マンリョウ
- モウソウチク
- モミジ
- ヤツデ
- リュウキュウハゼ

* 敷地外

無原罪特別保護区と深沢の杜緑地の湧水と池

区の調査によると、特別保護区周辺では北西方向から南東方向に地下水が流れているので特に上流方向の地下水の涵養が重要とのこと。地下構造物も地下水の流れに大きな影響を与えます。